

平成 26 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	水戸の子育て情報誌づくり		評価欄 B
協働事業者	水戸子育てネットワーク「みとこみ」	市担当課	子ども課
事業の概要	<p>「子育て中の“ママ目線”」による子育て情報誌の平成 26 年度版の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸市の子育て情報についてアンケート調査や取材を行い、体験談等を交えた子育て当事者目線の情報誌を作成した。 ・昨年度作成した情報誌について、子育て当事者対象の座談会等を複数回開催し、情報誌への評価や意見について検討し、可能な限り反映させた。 <p>【発行部数 5,000 部】</p>		
委員会意見	<p>「ママナビ」の内容は年々充実しており、細かいところまで配慮が行き届いている情報誌になっている。また、改訂作業では、子育て当事者対象の座談会やアンケートも行っており、子育て中の目線を失うことなく、情報誌が作成されている。</p> <p>一方で、手作り感が少なく、情報が画一的になっている印象もあったので、「子育て中の“ママ目線”」という団体の個性も生かした情報誌になるよう工夫していただきたい。</p> <p>今後は、Web サイトも公開していくということで、より多くの市民に周知されることを期待している。また、これまで積み上げてきたノウハウをシステム化し、事業を継続して行えるよう、担当課とも連携・協力しながら今後も事業を行っていただきたい。</p>		

平成 26 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	子どもを主体とする創造的放課後事業の推進 《放課後の学校クラブ》の定着と拡張を目指して		評価欄 B
協働事業者	放課後のクラブ実行委員会	市担当課	総合教育研究所
事業の概要	<p>「放課後こども教室」事業を請け負っている団体とも連携しながら、茨城大学教育学部附属小学校にて「放課後の学校クラブ」、吉田小学校と浜田小学校にて「夢の学校をつくろう」を実施した。また、水戸芸術館の「こども・こらぼ・らぼ」に参加し、「放課後の学校クラブ」を実施した。</p> <p>水戸芸術館現代美術センターの「高校生ウィーク 2015」においては、公開ミーティング「先生のい（ら）ない学校」を実施した。</p>		
委員会意見	<p>平成 26 年度は、浜田小学校だけではなく、吉田小学校や茨城大学教育学部附属小学校でも開催しており、事業の広がりを感じることができた。</p> <p>このプログラムが、市内・外の小学校における放課後教育に浸透し、より多くの児童の個性・創造性の発達を促すことができるよう、市担当課や他の団体とも連携・協力しながら、今後も事業を進めていきたい。</p> <p>また、子ども達が自主的に自由に学べる場を作るためには、子ども達をリードできる指導者が必要である。今後は、知識と技能を持つファシリテーターの養成にも力を入れていきたい。</p>		

平成 26 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	Let' s DANCE!! ～ダンスをみんなで楽しもう!～		評価欄 A
協働事業者	W_αLPHA	市担当課	総合教育研究所
事業の概要	<p>本事業では、小中学校でダンスが必修化になったことを受けて、小中学校において、教員向けの講習会や各学校でモデル授業を行った。</p> <p>○教員向け講習会（平成 26 年 8 月 1 日）</p> <p>市立小中学校体育指導担当教諭 4 6 名に対して、ダンスの実技研修を行った。平成 25 年度よりも内容をレベルアップして研修を行った。</p> <p>○ダンス授業支援事業（8 校）</p> <p>市立小中学校 49 校への意向調査をもとに 8 校を選出し、教員・児童に対して実践指導を交えたダンス指導を実施した。</p> <p>○こみっとフェスティバルでの PR</p> <p>こみっとフェスティバル 2015（平成 27 年 2 月 21 日 イオンモール水戸内原）にて、活動内容の紹介と、デモンストレーション演技を実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、団体と市担当課がしっかりと話し合いを行い、お互いの特性を生かして事業を展開している点が高く評価できる。</p> <p>本事業の目的である、教員の指導力のさらなる向上のため、年 1 回の教員向け講習会に止まらず、一般公開のモデル授業の実施など、今後も継続して事業を行っていただきたい。</p> <p>本事業は、今年度で最終年度となるが、教員の指導力はすぐに身に付くものではなく、現場のニーズも高いことから、継続した取組が必要であり、来年度からは市担当課での予算化も視野に入れて、事業の長期継続に向けた具体的な方向性を定めていただきたい。</p>		

平成 26 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	木戸房池ビオトープ整備事業		評価欄 B
協働事業者	特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき	市担当課	環境課
事業の概要	<p>本事業は、木戸房池を地域の多世代の手によりビオトープ化し、自然の生態系豊かな里山を維持し、環境教育の場や、周辺の人々の憩いの場として将来の世代に引き継ぐことを目的としている。</p> <p>平成 26 年度は、球根の植栽作業、倒木のチップ化、木道づくりなどを専門業者や協力団体、一般市民とともに行った。また、子ども向けの環境学習として、放射能濃度測定やバードウォッチングなども行った。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、地域の子どもたちの参加も増え、様々な団体との連携・協力体制の下で里山整備を行っている点が高く評価できる。この里山が将来にわたって守られ続ける存在になるために、若い世代にもこの事業の重要性を伝え、来年度以降も事業が継続することを期待している。</p> <p>今後も、PTAや子ども会とも連携し、親と子が一緒に活動の体験をできるような企画や、広報やWebサイトなどを利用した全市的な参加の呼びかけを行って、理解者や後継者を増やし、この事業が他の地区にも広がる工夫をしていただきたい。</p>		

平成 26 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	外国人を対象とした防災意識啓発事業		評価欄 A
協働事業者	みと男女平等参画を考える会	市担当課	地域安全課
事業の概要	<p>○防災に関するアンケートの実施 より多くの外国人市民からの防災に関する意見を取り入れるため、水戸市国際交流センターを利用する外国人市民を中心にアンケートを行った。</p> <p>○防災ノートの編集・配布 意見交換会やアンケートの回答をもとに、防災ノートの編集作業を進め、中国語、韓国語、英語、やさしい日本語で作成した。また、市内の関連施設や、市外でも防災ノートの配布を行った。【発行部数 6000 部数】</p> <p>○防災講座の開催（平成 26 年 7 月 12 日） 作成した防災ノートを活用し、自助・共助の重要性を伝えるとともに、日頃の備えや災害時の対処法について説明した。</p> <p>○防災訓練の開催（平成 26 年 12 月 6 日） 地震から身を守る訓練、施設の防災設備を活用した避難訓練、消火活動訓練、避難所体験など、災害発生直後から数日後にいたる行動について、体験型の防災訓練を実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業では、防災のノートの作成に加えて、外国人市民がより実践に近い形で体験できる防災講座や防災訓練を行い、外国人市民の防災への理解が深まったように感じた。</p> <p>今年度は、外国人市民が地域住民とともに助けあい、災害時に柔軟な対応ができるように、市民が外国人市民との防災に対する認識の違いを理解するための交流の機会を設けたり、外国人市民も地域の防災訓練に参加してもらったりなど、地域コミュニティとの連携も重視して、事業を展開していただきたい。</p>		

平成 26 年度協働事業の評価及び委員会意見

協働事業名	水戸の職人物語広報プロジェクト		評価欄 B
協働事業者	常磐大学地域政策研究会	市担当課	商工課
事業の概要	<p>本事業は、水戸の中心市街地にある魅力的な店舗のこだわりを発掘し、パンフレットを作成・配布することで、若者を水戸のまちなかに呼び起こし、中心市街地の活気を取り戻すことを目的としている。</p> <p>平成 26 年度は、水戸の高校生や大学生にアンケート調査を実施し、魅力的な店舗の発掘を行った。さらに、その店舗へインタビューに行き、こだわりなどを調査し、パンフレットに掲載した。パンフレットは、大学生や市施設、梅まつりなどで配布した。また、パンフレットと連動した Web サイトの立ち上げも行った。</p> <p>【発行部数 1 万部】</p>		
委員会意見	<p>本事業は、学生の視点を生かしたパンフレットを作り、中心市街地の活性化を目指すものだが、学生ならではのオリジナリティがあまり見られず、より工夫が必要であると感じた。</p> <p>中心市街地の飲食店を取り上げたパンフレットは他にも多く存在している中で、それらとの差別化を図れるような、学生ならではの一冊を作っていたきたい。また、学生自ら街を歩き、職人といえるこだわりを持った店舗の掘り起しも行っていただきたい。</p> <p>事業の継続に関して、学年ごとのメンバーの入れ替えの際には、十分に引き継ぎを行い、円滑に事業が継続できるしくみを作っていたきたい。</p> <p>中心市街地活性化に向けた一歩となるよう、担当課とも連携しながら、学生の視点を生かした事業展開に期待する。</p>		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月29日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×9人＝180点満点

		採点基準
A	評 価	135～180点
B	評 価	90～134点
C	評 価	45～89点
D	評 価	0～44点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実 行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評 価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見 直 し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5

